

歴史サークル6月例会を開催

6月20日(金)

20名が参加

【史跡案内コース】

豊浦休憩所

① 豊浦宮跡(向原寺)

② 飛鳥寺・入鹿首塚

③ 石神遺跡

④ 水落遺跡

歴史ガイドは、豊浦寺の塔があったと推定されている向原寺南側の石標「豊浦宮址」横の礎石に立ち寄ったあと、「難波池」と呼ばれる故地を訪れました。(写真右)

『日本書紀』欽明

天皇13年仏教公伝の記事にある廃仏派の物部尾輿らが仏像を捨てた「ナニワの堀江」だとの説明が行われました。

向原寺に入山し、本堂に安置されている本尊・阿弥陀如来を拝観。盗難に遭い36年ぶりに寺に戻って、“奇跡の生還仏像”と話題になった飛鳥時代の「金銅観音菩薩立像」(江戸年間に頭部がこれも難波池で発見)に出会いました(写真右)。

1985年の発掘調査では、向原寺境内から7世紀前半の豊浦寺講堂跡と推定される版築の基壇が検出され、この基壇の下層には石敷と掘立柱建物の跡が確認されました(写真左)。

蘇我原敬浄住職によると、「現在の向原寺周辺では、これまで、金堂、講堂の跡が発掘され、その下層から姿を現した豊浦宮跡は飛鳥に宮を置いた最初の天皇(推古天皇)が政治を執った場所。明日香村を訪れる皆さんは、素晴らしい自然景観と一体となった飛鳥の歴史・文化

の魅力に注目してほしい」と熱く語られました。

次は、日本で最初の本格的な瓦葺きの寺院として、蘇我馬子の発願で建立された飛鳥寺(法興寺)です。現在は安居院がありますが、創建当時には、約20倍にもなる約7万平方メートルの広大な寺域に「一塔三金堂式」の特異な伽藍を有していました。塔や本堂は落雷によって幾度も焼失・再建されました。本尊の飛鳥大仏(釈迦如来坐像)も傷つき、満身創痍ながらも補修を受け、約1400年の間同じ場所で激動の歴史を見つめ、今日に至っています。そのあと西門跡と、飛鳥寺西方遺跡の「槻の木広場」「入鹿首塚」などに立ち寄りしました。(写真上)



「南門より西門が大きいのはなぜ？」「槻の木広場の槻（ケヤキ）の大木の痕跡は見つかったのか？」などの質問に対し、考古学的見地を踏まえながら、いろいろな説が出されました。



次は明治35・36年に発見された飛鳥のシンボルの一つともなっている石人像と須弥山石（石造噴水施設）が見つかった石神遺跡です。これまで何度も発掘調査が行われ、“斉明期の迎賓館”を裏付ける遺物や遺構が発見されています。天武・持統期の遺構からも墨書木簡が大量に出土し、官衙（役所）の施設をうかがわせています。今年3月の調査報告では東西約133m・南北約95mの区画に遺構が広がっていることが確認されています。

水落遺跡では（写真上）、サイフォン式の最新テクノロジーで製作された古代の水時計・漏刻跡が見ついています。「なぜ、飛鳥川の東岸の湿地といわれる場所が選ばれたのか」「中大兄皇子が時を支配する目的で作ったということだが、その背景にある政治的意図は？」などの質問が出され、参加者による活発な意見が交わされました。

今回は、熱中症の危険を避けるため、コースを短縮・変更し、午前中の活動のみにしました。なお、午後は希望者10人で「明日香村埋蔵文化財展示室」を見学しました。

（ガイド担当：27期 田原清澄、27期 佐藤安市 写真提供：20期 北 佳史）

【お知らせ】毎月4～6月は2～4年目の修了生のコース習熟とガイドスキル向上を目的に開催しています。今月は29期の担当で宮田さんが尽力され、資料による学習と下見を行い、緻密なコースプランを作成してくださいました。今回は、猛暑による熱中症対策のため急きょプランを変更し、半分のコースしか実施できませんでした。そのため残念ながら、宮田さんには「大官大寺跡」と「山田寺跡」、13期尾関さんには「藤原鎌足誕生地（大原神社）」・「大伴夫人の墓」のガイドを行っていただけず、申し訳なく思っています。お二人には勉強の成果を次の機会に披露していただければと存じます。

（サークル長・中道22期、副サークル長・佐藤27期）

